

国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学
経営協議会（平成23年度第5回）議事要旨

1. 日 時 平成24年3月21日（水）14：55～16：30
2. 場 所 奈良先端科学技術大学院大学 事務局3階 会議室
3. 出席者 磯貝議長
村井、新名、澤田、畚野、片岡、松本、北出の各学内委員
石井、小出、佐々木、宮寫、CASSIM、矢嶋の各学外委員
欠席者 井上、志村の各学外委員
出席監事 二宮監事
陪席者 堀江教育研究支援部長
奥田、吉田、桐山、大場、林田、成相、末廣の各課長
4. 配付資料
- 資料1 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学経営協議会（平成23年度第4回）議事要旨（案）
- 資料2 平成24年度年度計画について
- 資料3－1 平成24年度国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学予算編成方針について（案）
- 資料3－2 平成24年度国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学予算配分について（案）
- 資料3－3 平成24年度目的積立金の配分方針について（案）
- 資料3－4 平成24年度重点戦略経費の配分方針について（案）
- 資料4 平成23年度目的積立金の配分について（案）
- 資料5－1 学内諸規約の改正について【経営協議会】
- 資料5－2 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学役員報酬規程の一部改正について
- 資料5－3 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学職員の勤務時間、休日及び休暇等に関する規程等の一部改正について
- 資料6 本学の主な動きについて（平成24年1月26日（木）～平成24年3月20日（火））
- 資料7 平成24年度国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学運営体制
- 資料8 平成24事業年度及び平成25事業年度会計監査人候補者の選定結果について
- 資料9 平成23年度外部資金の受入れについて
- 資料10 平成24年度経営協議会の開催予定日について（案）
- 資料11 平成25年度新規概算要求事項一覧
- 参考資料 奈良先端大の概要と特色

5. 議 事

（前回議事要旨の確認）

資料1の前回（平成23年度第4回）の議事要旨（案）について、審議の結果、一部修正の上、承認された。

(審議事項)

(1) 平成24年度年度計画について

村井委員から、資料2に基づき、平成24年度年度計画について説明が行われ、審議の結果、原案どおり承認された。

(2) 平成24年度予算編成方針について

澤田委員から、資料3に基づき、平成24年度予算編成方針について説明が行われ、審議の結果、原案どおり承認された。

(3) 平成23年度目的積立金の配分について

澤田委員から、資料4に基づき、平成23年度目的積立金の配分について説明が行われ、審議の結果、原案どおり承認された。

(4) 学内諸規約の改正について

澤田委員から、資料5に基づき、学内諸規約の改正について説明が行われ、審議の結果、原案どおり承認された。

(報告事項)

(1) 本学の主な動きについて(平成24年1月26日～平成24年3月20日)

議長から、資料6に基づき、平成24年1月26日から平成24年3月20日に行われた本学の活動状況等について、報告が行われた。

(2) 平成24年度運営体制等について

議長から、資料7-1～2に基づき、平成24年度運営体制等について、報告が行われた。

(3) 平成24事業年度及び平成25事業年度会計監査人候補者の選定結果について

澤田委員から、資料8に基づき、平成24事業年度及び平成25事業年度会計監査人候補者の選定結果について、報告が行われた。

(4) 平成23年度外部資金の受入れについて(3月報告分)

新名委員から、資料9に基づき、平成24年3月8日現在における平成23年度外部資金の受入れについて、報告が行われた。

(5) 平成24年度経営協議会の開催予定日について

議長から、資料10に基づき、平成24年度経営協議会の開催予定日について、報告が行われた。

(その他)

(1) 平成25年度新規概算要求事項一覧について

澤田委員から、資料11に基づき、平成25年度新規概算要求事項一覧について、報告が行われた。

(意見交換・情報交換)

参考資料「奈良先端大学の概要と特色」に基づき、本学における入学者の現状と課題について、意見交換及び情報交換が行われた。

(主な意見は、次のとおり)

- ・国際戦略の一つとして、海外の大学との研究室間交流を促進することが重要である。
- ・奈良先端大が、新興諸国のナショナル・サイエンス・ファンデーション等と連携し、科学者としての価値観形成にも役立つ科学者を養成する拠点として、新興諸国等の発展に貢献できることをアピールする取組が必要ではないか。
- ・グローバル化社会において、留学生が自国で活躍するだけでなく、日本において活躍することもあり、留学生のキャリアパスを大学として具体的に考えておく必要がある。
- ・我が国の問題として、個別の学術的及び科学的交流のみならず、文化交流とも互いに連携しながら相互に交流する中で海外との交流の裾野を広げることが重要である。
- ・MBA等の資格を持つ人材を尊重する文化や研究開発を早期に事業化できる仕組みが日本社会に必要である。
- ・東南アジア諸国においては、テクノクラートに対する需要がある。一方、日本の工学・理学教育には、テクノクラートを養成する意識が希薄であるため、その課題を克服するようカリキュラム等を工夫していくことが必要である。
- ・多様な文化を持つ学生が過ごしやすい大学を目指すことは、留学生等を集める戦略の一つとなる。
- ・工学系・理学系の知識と他の大学院修了者とは違うグローバルな能力を身につけた付加価値のついた修了生の処遇を考える必要がある。
- ・奈良先端大の魅力を活かして、直接企業のトップに大学の中身を知らせる活動が必要である。また、そのことが日本の科学を世界に知らしめる事にも繋がるのではないだろうか。
- ・様々なネットワークを活用し、専門分野に加え、俯瞰的視野を養う教育の仕組みがあれば、奈良先端大の魅力になる。
- ・福島原発に行った様々な科学者が、現場で自分たちのサイエンスが通用しないことがあること、また他の専門分野との連携を深める必要があることを痛感した。科学や企業の現場に行くだけでも勉強になることを認識する必要がある。

以 上